

第6節 顕在化する地球温暖化への適応

1 地球温暖化の影響と適応策【環境政策課】

(1) 適応策の検討

本年9月、「気候変動に関する政府間パネル(IPCC: Intergovernmental Panel on Climate Change)」は、スウェーデンストックホルムにおいて、第36回総会及び第1作業部会第12回会合を開催し、第5次評価報告書第1作業部会報告書の政策決定者向け要約(SPM)を承認しました。

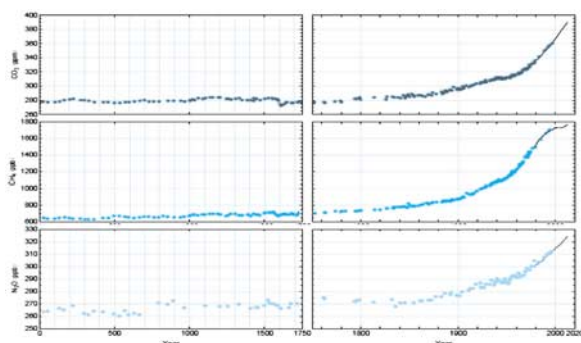
この報告書によると、温暖化の原因が人間の活動である可能性が極めて高い(95%以上)とし、今後、有効な対策がとられなかった場合、今世紀末に地球の平均気温が最大4.8℃、海面水位は82cm上昇すると予測しています。

第4次評価報告書(2007年)と第5次評価報告書は、シナリオの前提条件が異なるため、単純な比較はできません。国立環境研究所によると、第4次報告書のシナリオを第5次報告書にあてはめた場合、ほぼ同等の平均気温上昇になり、海水面の上昇については、グリーンランドや南極大陸の氷床を精緻に分析できる技術の向上によるものであるとしています。

また、第4次評価報告書では、緩和策と適応策が地球温暖化対策の両輪であると述べています。温室効果ガスの排出量を削減する努力は重要ですが、削減しても何らかの温暖化影響が生じると言われており、その影響に適応していくことが重要になります。国においても、平成27年夏を目途に適応計画の策定を目指しています。

福井県においても、平成25年度に改正した「福井県環境基本計画」の中で、「顕在化する地球温暖化への適応」として、県内の温暖化の影響と考えられる事象について、様々な視点からさらに詳しい現

図2-6-1 温室効果ガス濃度



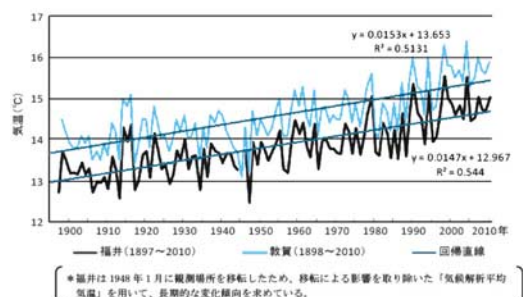
出典：IPCC第5次評価報告書第1作業部会報告書

状分析を行うとともに、様々なツールを活用して、本県における温暖化の影響を予測していくこととしています。

(2) 福井県の現状例

① 福井県の平均気温の推移 図2-6-2

本県においても、平均気温の上昇傾向が観測されています。

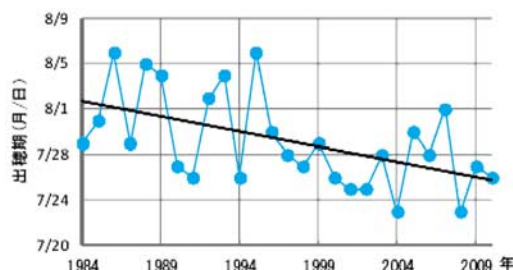


出典：「福井県から見る地球温暖化」調査研究報告書

(福井県衛生環境研究センター)

② コシヒカリの出穂期の推移 図2-6-3

本県が発祥の地であるコシヒカリは、1990年代後半以降、出穂期が早くなる傾向があります。(産業への影響例)

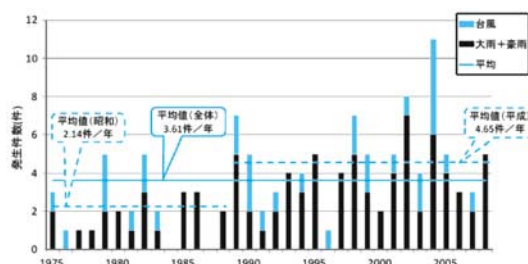


出典：「福井県から見る地球温暖化」調査研究報告書

(福井県衛生環境研究センター)

③ 風水害の発生件数の推移 図2-6-4

風水害の平均発生件数が、年々増加する傾向にあり、平成になってからの平均発生件数が約2倍になっています。(災害への影響例)



出典：「福井県から見る地球温暖化」調査研究報告書

(福井県衛生環境研究センター)